

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和6年11月5日（火）

2 確認箇所

2号機原子炉建屋西側（既存・増強サブドレンピットNo. 207）
（図1）

3 確認項目

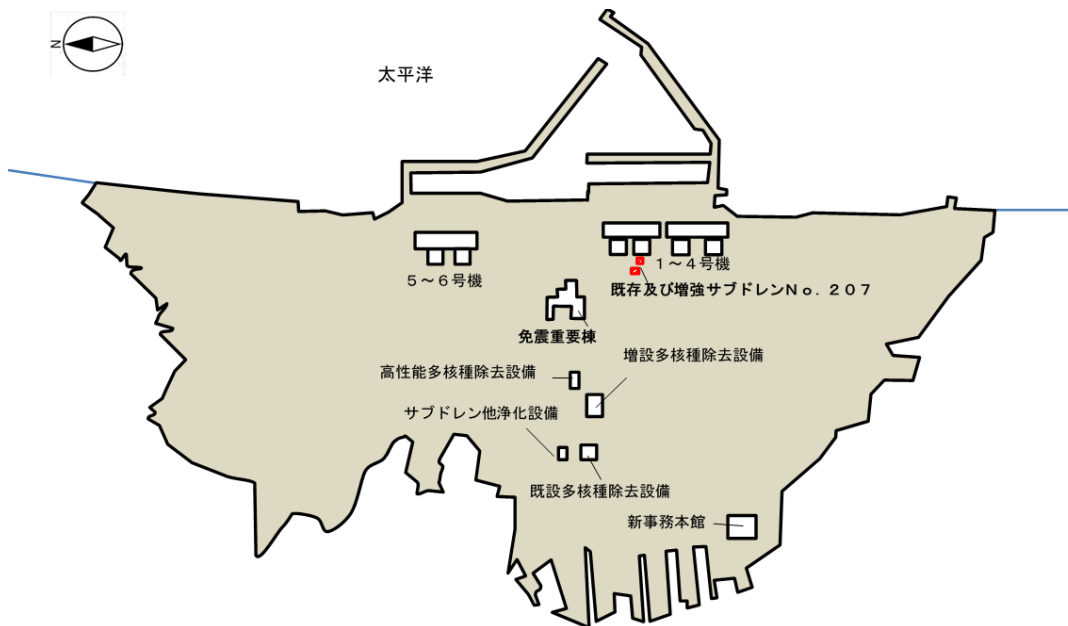
既存及び増強サブドレンピット等の設置・運用状況

4 確認結果の概要

サブドレンは、原子炉建屋等の近くに設置されている井戸であり、地下水が原子炉建屋等に流れ込むことで増加する汚染水の量を減らすため、平成27年より運用を開始している。処理能力向上のため、平成29年以降より口径の大きい新設（増強）ピットを設置し、増強ピットへ処理機能を移行しているが、サブドレンピットNo. 207は平成30年に既存ピットのトリチウム濃度上昇が判明したことから、増強ピットでの汲み上げに伴うトリチウム拡散を防ぐため、既存ピットの運用を継続してきた。

本年6月にサブドレンピットNo. 207（既存）のケーシング損傷に伴う揚水ポンプの汲み上げ不良が発生したことから、処理機能を既存ピットから増強ピットへ変更する増強工事を改めて行うことが計画されており、今回は既存及び増強ピット状況を確認した。（前回確認：平成30年8月3日）

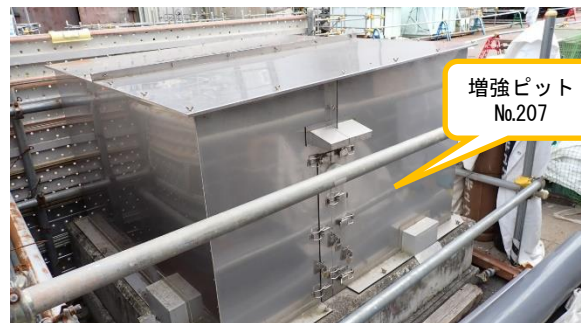
- ・これまで確認したピットと同様、サブドレンピットNo. 207は既存・増設とも雨水浸入対策として、周囲はコンクリートが打設され、金属製の箱で覆われていた。（写真1）
- ・計画では、増強ピット内に揚水ポンプを新設の上、サブドレンNo. 208の既存配管に新設のPE配管が現場状況に併せて接続される予定となっているが、現時点では、周囲に汲み上げ水の移送配管や電源ケーブル類は、敷設されていなかった。（写真2）
- ・東京電力では、サブドレンピットNo. 207周辺で近年トリチウムの濃度上昇はなく、低濃度で推移していることから、増強ピット稼働に伴う影響は大きくないとしている。



(図 1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真 1)
サブドレンピットNo. 207 (既存) の状況



(写真 2)
サブドレンピットNo. 207 (増強) の状況

- 5 プラント関連パラメータ確認
各パラメータについて、前日と比べ有意な変動は確認されなかった。